

2023年3月19日開催「教員を目指す高校生のためのセミナーin青森」質問と回答

【質問1】

子どもとの関わりの中で、最も意識していることはなんですか？

【回答1】

一緒に喜んだり、驚いたりすることを楽しむことです。

大学を卒業する時、サークルの先生が「子どもと一緒に楽しむことができるところがいいところだよ。」と言ってくださりました。先生のその言葉が嬉しくて、それが私の強み・長所だと信じています。働くようになってから、意識するようになりました。授業づくりや授業の場面で、私自身も新しい気づきや学びがたくさんあります。子どもたちと一緒に調べたり学んだりしていくうちに、嬉しいこともびっくりすることも、どんどん増えます。やることがたくさんあって、淡々と授業を進めてしまいそうなときに、サークルの先生の言葉や子どもたちのにこにこ顔を思い出して、一緒に楽しんで過ごすようにしています。

質問してくれた方にも、子どもとの関わる時の強みがきっとあると思います。色々なことにチャレンジしていくうちに、見つかると思います。応援しています。

【質問2】

今の小学校教諭には条件として英語が義務付けられていると耳にしました。英語ができないと小学校教諭にはなれないのでしょうか？

【回答2】

英語が心配なののでしょうか？「英語ができる」の「できる」がどのくらいなのかは分かりませんが、大丈夫です、なんとかなります！

先生自身の英会話スキルに対するサポートはたくさんあります。教室で使う英語表現集が、県や市からでている場合もありますし、デジタル教科書も先生たちへのサポートが充実しています。ALTの先生とのやりとりも、日本語と簡単な英語の表現でどうにかなります。授業内の言語を全て英語にする必要はないと、わたしは考えていますが、自治体や学校によって、指導への考え方はそれぞれなので、相談してみてください。

「どの教科も全力で」という考えも大切ですが、人によって得意なこと、不得意なことがあると思います。坂本良晶先生（さる先生）の『さる先生の「全部やろうはバカやろう」』という本にも書いていますが、全部自分だけでやると、苦しくなってしまう。得意な先生に相談して、自分にできそうなことを少しずつやってみてください。

ただ、英語学習の考え方や指導法は、他の教科同様に学ぶ必要があります。授業をするにあたって、どんなことをどんなふうに学んで欲しいのか、どんな姿に育ててほしいのかというビジョンは、とって大切。大学の授業で学ぶこともできますし、指導法の書籍やセミナーもたくさんあるので、ぜひチャレンジしてみてください。